

～低炭素社会構築に向けた地域の取組に学ぶ～

in
仙台

東北での成功事例を世界へ発信し、さらなる低炭素社会推進を目指す

3月10日に東京で開催された《低炭素社会構築の道筋を学ぶ国際シンポジウム》に先駆け、全国7カ所で開催された《地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ推進地域フォーラム》が行われました。昨年12月、中央環境審議会地球環境部会中長期ロードマップ小委員会によって「中長期の温室効果ガス削減目標を実現するための対策・施策の具体的な姿（中長期ロードマップ）（中間整理）」がとりまとめられました。このフォーラムは中間整理の内容を紹介し、地域の企業や自治体における低炭素社会構築に向けた先進的な取組も踏まえながら、国民の方にさらに議論を深めてもらうことを目的に、環境省が主催しています。2月25日（金）に仙台市民会館 小ホール（仙台市青葉区）で行われた同フォーラムin仙台的模様をご紹介します。



中長期ロードマップの目的と意義に関心を抱いた方々が多数来場されました

基調講演

■古田 秘馬氏

株式会社umari代表取締役、プロジェクトデザイナー。1999年、ノンフィクション「若き挑戦者たち」出版。2002年より企業・自治体のブランド戦略コンサルタントを中心に丸の内朝大学、農業実験ステーション六本木農園などを手がける。

コーディネーター

■増井 利彦氏

独立行政法人国立環境研究所 社会環境システム研究領域 統合評価研究室長。専門は環境システム工学。2003年の中期目標検討会から日本の削減目標の試算に関わり、東京工業大学の連携准教授を併任。

パネリスト

■橋本 保氏

株式会社有紀代表取締役。1973年、渡辺パイプ株式会社入社。2001年に株式会社有紀および有限会社有紀建築設計事務所を設立し、人の体重で開閉する「電気の要らない自動ドア」を開発。

■山口 勝洋氏

環境エネルギー普及株式会社 代表取締役。シカゴ大学院経営学修士（MBA）。2009年、「サステナブル（株）」設立。太陽光発電の17年保証・保守サービスと、金融機関との共同ファンドに新規地を開く。

■竹本 徳子氏

東北大学大学院 生命科学研究所 生態学・エネルギー分野准教授。Ph.D.（経済学）。地球環境戦略研究機関（IGES）フェロー、東京大学公共政策大学院特任准教授を兼任。

■馬奈木 俊介氏

東北大学大学院 環境科学研究科 環境・エネルギー分野准教授。Ph.D.（経済学）。地球環境戦略研究機関（IGES）フェロー、東京大学公共政策大学院特任准教授を兼任。

古田 秘馬氏
地域づくりを手がける際、私が基本コンセプトにしているのは、何もつけない、何も壊さないということ。八ヶ岳では、「日本一の朝」をコンセプトにヨガや日の出、バードウォッチングなど朝の楽しみ方を充実させ、町を活性化させました。小規模の生産者や生産地のブランドディングなどを目的とする六本木農園では「農家のライブハウス」をコンセプトに、農場展示場とレストランを設け、農家ライブを開催しています。朝を楽しみたいという人、将来の農業従事者、

増井 利彦氏
低炭素社会への変化が進行中
これからはさらに持続可能な取り組みを
増井 利彦氏
いま、さまざまな事例、研究の報告があったのですが、付け加えることがあるとすれば、どんなことでしょうか。
橋本 保氏
車椅子の方が弊社の電気を使わない自動ドアにたいへん注目されました。車椅子を使われる方は、町中での停電を非常に怖れているということでした。製品や技術の開発では、災害や地震、停電に強い、という視点も重要なのです。また、森林資源の活用をするNPOを作り、工場のある会津で桐の植林を行っています。町の「桐の応援団」や、バイオマス協議会などにも参加して、循環型の企業を目指していきたいと思っています。
山口 勝洋氏
私たちが活動を始めた2004年ごろに比べると今は、環境活動をしながら、経済的な利益を出すことができるようになりました。環境と経済の好循環が確

橋本 保氏
この原理で稼働する自動ドアでCO₂排出量を大きく削減
弊社では電気を使わない自動ドアを実用、販売しております。「この原理」を使い、踏み板に体重を乗せることで、扉の開閉を行います。現在、高速道路のサービスエリア、学校などへの設置が進んでいます。手を触れないという衛生面、動力を使わないので事故が起きにくいという安全面も高く評価されています。一般的な自動ドアと比較して、CO₂排出量が年間300キロ、44本の杉の植林に値します。
山口 勝洋氏
パネルディスカッション
この原理で稼働する自動ドアでCO₂排出量を大きく削減
弊社では電気を使わない自動ドアを実用、販売しております。「この原理」を使い、踏み板に体重を乗せることで、扉の開閉を行います。現在、高速道路のサービスエリア、学校などへの設置が進んでいます。手を触れないという衛生面、動力を使わないので事故が起きにくいという安全面も高く評価されています。一般的な自動ドアと比較して、CO₂排出量が年間300キロ、44本の杉の植林に値します。
竹本 徳子氏
温暖化対策が人々の心と体を動かす
生態系に順応した持続可能な社会への様々な知恵
温暖化対策として、仙台の小学生による壁面緑化や、山形県の学生は手作り太陽光パネルをモンゴルにもって行くなどの取り組みが行われています。また、「無限のほり米」といわれるスーパリーを介した米の完全循環システムや仙台市の使用済み天

馬奈木 俊介氏
環境政策は、この10～15年で大きく変化
しました。社会的にも環境への投資に対する理解が進み、ビジネスの成功例も増えてきています。中国やアメリカでも、かなりの投資が進められています。増井 利彦氏
今回のロードマップは中間整理であり、これからどんどん洗練されたものになっていくべきです。その

竹本 徳子氏
温暖化対策が人々の心と体を動かす
生態系に順応した持続可能な社会への様々な知恵
温暖化対策として、仙台の小学生による壁面緑化や、山形県の学生は手作り太陽光パネルをモンゴルにもって行くなどの取り組みが行われています。また、「無限のほり米」といわれるスーパリーを介した米の完全循環システムや仙台市の使用済み天
増井 利彦氏
今回のロードマップは中間整理であり、これからどんどん洗練されたものになっていくべきです。その

山口 勝洋氏
パネルディスカッション
この原理で稼働する自動ドアでCO₂排出量を大きく削減
弊社では電気を使わない自動ドアを実用、販売しております。「この原理」を使い、踏み板に体重を乗せることで、扉の開閉を行います。現在、高速道路のサービスエリア、学校などへの設置が進んでいます。手を触れないという衛生面、動力を使わないので事故が起きにくいという安全面も高く評価されています。一般的な自動ドアと比較して、CO₂排出量が年間300キロ、44本の杉の植林に値します。
竹本 徳子氏
温暖化対策が人々の心と体を動かす
生態系に順応した持続可能な社会への様々な知恵
温暖化対策として、仙台の小学生による壁面緑化や、山形県の学生は手作り太陽光パネルをモンゴルにもって行くなどの取り組みが行われています。また、「無限のほり米」といわれるスーパリーを介した米の完全循環システムや仙台市の使用済み天

増井 利彦氏
今回のロードマップは中間整理であり、これからどんどん洗練されたものになっていくべきです。その

馬奈木 俊介氏
環境政策は、この10～15年で大きく変化
しました。社会的にも環境への投資に対する理解が進み、ビジネスの成功例も増えてきています。中国やアメリカでも、かなりの投資が進められています。増井 利彦氏
今回のロードマップは中間整理であり、これからどんどん洗練されたものになっていくべきです。その

山口 勝洋氏
パネルディスカッション
この原理で稼働する自動ドアでCO₂排出量を大きく削減
弊社では電気を使わない自動ドアを実用、販売しております。「この原理」を使い、踏み板に体重を乗せることで、扉の開閉を行います。現在、高速道路のサービスエリア、学校などへの設置が進んでいます。手を触れないという衛生面、動力を使わないので事故が起きにくいという安全面も高く評価されています。一般的な自動ドアと比較して、CO₂排出量が年間300キロ、44本の杉の植林に値します。
竹本 徳子氏
温暖化対策が人々の心と体を動かす
生態系に順応した持続可能な社会への様々な知恵
温暖化対策として、仙台の小学生による壁面緑化や、山形県の学生は手作り太陽光パネルをモンゴルにもって行くなどの取り組みが行われています。また、「無限のほり米」といわれるスーパリーを介した米の完全循環システムや仙台市の使用済み天

山口 勝洋氏
パネルディスカッション
この原理で稼働する自動ドアでCO₂排出量を大きく削減
弊社では電気を使わない自動ドアを実用、販売しております。「この原理」を使い、踏み板に体重を乗せることで、扉の開閉を行います。現在、高速道路のサービスエリア、学校などへの設置が進んでいます。手を触れないという衛生面、動力を使わないので事故が起きにくいという安全面も高く評価されています。一般的な自動ドアと比較して、CO₂排出量が年間300キロ、44本の杉の植林に値します。
竹本 徳子氏
温暖化対策が人々の心と体を動かす
生態系に順応した持続可能な社会への様々な知恵
温暖化対策として、仙台の小学生による壁面緑化や、山形県の学生は手作り太陽光パネルをモンゴルにもって行くなどの取り組みが行われています。また、「無限のほり米」といわれるスーパリーを介した米の完全循環システムや仙台市の使用済み天

馬奈木 俊介氏
環境政策は、この10～15年で大きく変化
しました。社会的にも環境への投資に対する理解が進み、ビジネスの成功例も増えてきています。中国やアメリカでも、かなりの投資が進められています。増井 利彦氏
今回のロードマップは中間整理であり、これからどんどん洗練されたものになっていくべきです。その

馬奈木 俊介氏
環境政策は、この10～15年で大きく変化
しました。社会的にも環境への投資に対する理解が進み、ビジネスの成功例も増えてきています。中国やアメリカでも、かなりの投資が進められています。増井 利彦氏
今回のロードマップは中間整理であり、これからどんどん洗練されたものになっていくべきです。その

